

2点目として、今後、行政に求められる点は、これまでの延長線上で事業、政策・施策を進めていくことに無理が生じるようになると思います。低成長時代の下で、行政としては減量経営を余儀なくされ、行政サービスの削減とともに施設整備についても慎重に計画を立てなければならない厳しい現実が待っていると思います。今までの総合計画には、地域の未来予測について具体的に示されていません。今後の総合計画は、様々な目標数値を立てながら、厳しい将来を想定し、その方向性を示すことになってきたと思います。

したがって、行政改革を進めた上で、今後予想される人口減少と産業構造の変革や社会情勢を捉え、低成長時代に合致した総合計画にする必要があると考えます。

次に、痛みを伴う改革なくして30年先も持続可能にできるとは思いません。次世代の負担を軽減するためにも、今すぐやらなければならないことがたくさんあると思います。積極的に取り組まない限り、10年先、20年先が非常に不安であります。

最後に、市長は、先ほども申し上げましたが、行政改革そのものに担当課に任せきりでやってこなかったかと思う点があります。もっとリーダーシップを発揮すれば、多くの点で行政改革が進んだものと思います。今後の市長の行政改革に大いに期待して、質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、松尾議員の質問が終わりました。

11時30分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時21分 休憩〉

〈午前11時30分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

おはようございます。清政クラブの東野でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、コロナ禍における地域経済の見通しについて。

国内の新型コロナウイルス感染症拡大からおよそ半年が経過しました。

市内飲食業や小売業・宿泊業の聞き取り調査の中で、糸魚川市独自の迅速な経済対策から、事業継続に対するモチベーションの向上も見られ、7月、8月には一部のお店で売上げの回復基調も見られました。糸魚川市の対応に感謝申し上げます。

政府の新型コロナウイルス感染症対策本部は、国民全員に行き渡る量のワクチン確保を目指し、関連費用を今年度予算の予備費から充てる方針を決めております。早期開発と流通を期待するとこ

ろであります。ワクチンや治療薬が完成するまで、糸魚川市も「夢と希望」を忘れず、状況変化に負けない適応力で乗り切っていければと考えます。

- (1) コロナ禍の影響を踏まえ、今後の地域経済の見通しと対応策を伺います。
- (2) 経営相談窓口の利用状況を伺います。
- (3) 好評であった「糸魚川元気応援券発行事業」と「出身大学生等応援事業」について、内容の再考も含め、コロナ禍の状況に応じた検討をするか伺います。
- (4) コロナ禍において会社運営・店舗運営が厳しい状況が続く中、地域の中小企業やお店は、事業継続における経営努力をされています。糸魚川市として事業所との関わりについて伺います。

## 2、コロナ禍における糸魚川市内観光への影響について。

- (1) 市独自の「糸魚川・今すぐGoToキャンペーン」の効果について伺います。
- (2) 令和2年8月現在、Go To トラベル事業の対象に、これまで除外されていた東京発着の旅行が追加される可能性があります。来市によって新型コロナウイルス感染症拡大への懸念がある中、糸魚川市の医療体制をどのように整備検討していくのか伺います。
- (3) コロナ禍により、インバウンド需要が壊滅的であると考えますが、令和2年度一般会計予算の「インバウンド推進事業」の中の糸魚川シーフードシャトルバスの運行について、今年の開催はどのように考えておられるのか、伺います。
- (4) コロナ禍は現状、収束の見通しが立たない状況ですが、糸魚川市民の皆様、市内観光資源の魅力を再確認していただく機会と捉えています。糸魚川市の考え方を伺います。

## 3、コロナ禍における糸魚川市のウェブサイトやSNS活用について。

- (1) 市内観光関連事業の消費喚起による地域経済の回復に向けた誘客宣伝（ECサイト構築等）の取組に関して、補助金交付後の事業者と糸魚川市の関わりについて伺います。
- (2) 糸魚川市公式ウェブサイトのトップページは、年間約50万件のアクセスがありますが、コロナ禍の状況において、広告バナーの枠数拡大と一定期間の有料広告掲載の減免措置の考えはありますか、伺います。
- (3) 糸魚川市としてSNS（ツイッターやインスタグラム等）の公式アカウント取得と活用について、有効な手段と考えているか、伺います。

## 4、糸魚川市駅北復興まちづくり計画について。

令和2年7月29日に第5回糸魚川市駅北まちづくり会議（実践会議）が開催されました。実践会議は、糸魚川市にとって公民連携の新しい形に挑戦しており、今後のまちづくりのスタイルとして課題解決や、物事の達成に寄与していくと考えます。

当日は、にぎわいの拠点施設の方向性を定める3つの視点が示され、その中の市内行政課題への対応として「子育て支援機能強化」とあり、当日は今後のハード面の整備について考え方が示されました。

大火からおおよそ3年と半年が過ぎ、ここに来て糸魚川市駅北復興まちづくり計画とは別に、立地適正化計画、明日の糸魚川を担う「ひとみかがやく日本一の子どもをはぐくむ」第2期糸魚川市子ども・子育て支援事業計画の一端が姿を見せてまいりました。

糸魚川市の顔となる駅北地区。今後の糸魚川市のまちづくりに関して意欲と考え方を伺います。

- (1) 糸魚川市の財源は年々先細り、少子高齢化が進む中、子育て支援の強化を図ることで、当市における「子育て環境や支援の満足度」をどの程度引き上げたいのか、考えを伺います。
- (2) 今後のリノベーションのまちづくりについて、糸魚川市の考えを伺います。
- (3) 糸魚川市は復興推進課の役割が終わった後、中心市街地の活用需要をどの程度引き上げたいのか、考えを伺います。
- (4) 駅北地区は高齢化が進み、生鮮食料品などの「買物難民」が多く存在します。行政として、地区の方々に不安を助長させないための手立てを伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、厳しい状況が続くと予想されることから、国や県の制度も活用し、状況に応じて適切に対応してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、商工会議所、商工会などの相談窓口での相談件数は約1,200件であります。

3点目につきましては、状況に応じて検討してまいりたいと考えております。

4点目につきましては、9月3日に関係機関による経済対策連絡会議を開催し、情報共有を図っており、今後も関係機関と連携して支援してまいります。

2番目の1点目につきましては、Go To トラベルが本格実施されるまでの旅行需要の早期回復と、観光消費喚起の緊急対策として一定の効果があつたものと考えております。

2点目につきましては、市内で感染が拡大した場合には、軽症者は糸魚川総合病院に入院することから、院内感染を防止するための設備について支援していくことといたしております。

3点目につきましては、今年度は白馬エリアの観光客や宿泊施設経営者を対象として、運行を計画いたしております。

4点目につきましては、この機会に市民の皆様からも地元の観光施設や温泉施設など、当市の魅力を再確認していただきたいと考えております。

3番目の1点目につきましては、誘客宣伝の補助制度を創設したところでありますが、今後も団体や事業者の皆様と連携して、誘客宣伝や情報発信に努めてまいりたいと考えております。

2点目につきましては、トップページを活用した誘客につながる仕組みを現在検討いたしております。

3点目につきましては、SNSは情報発信の有効な手段であると考えておりますことから、ホームページ等の連携など活用を検討してまいります。

4番目の1点目につきましては、総合計画においては子育て環境の満足度を5年度までに70%とすることを目標といたしております。

2点目につきましては、駅北エリアを基本として、活動を担う人材の発掘と支援に努めるとともに、地域資源となる建物や歴史・文化など、それぞれの連携をすることで駅北エリアの価値を高め、

持続的な発展につなげたいと考えております。

3点目につきましては、現在策定中の駅北まちづくり戦略に基づき、駅北地区の魅力が上がるよう取り組んでまいります。

4点目につきましては、地域内に商店があることが安心感につながると考えられますので、引き続き地元消費の取組を促進してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

2回目の質問に入らせていただきます。

大きな1番の（1）と4番まとめて後ほど質問させていただきたいと思っております。

（2）番の経営相談窓口の利用状況について、お伺いしたいと思います。

一経営者の立場で考えますと、このような相談窓口を利用するならば、コロナ禍に関わる補助金等の申請で不備がないか、そういった利用にとどまるのではないかと考えます。今ほど1,200件ほど窓口で相談があったとのことですが、経営の相談をするならば、担当の税理士さんや銀行の担当の方に相談するのが普通ではないかと考えます。

しかし、緊急時においては、1件でも相談の見込みがあれば安心のために糸魚川市役所のほうにも窓口を設置する必要があると考えております。

ここから質問になりますが、糸魚川市においては、糸魚川創成塾が2018年からスタートしておりますが、創成塾を卒業された事業者さん、新規創業者の皆さんに対する状況調査等を行ってくださっているとと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

創業支援ということで、今言われましたように創成塾を開講しておりまして、多くの皆さんから参加いただきまして一定の効果を上げていると認識しております。創業者に対しましては、創業の前の段階から創業の段階、またその後、アフターフォローも含めまして、段階的に相談をしておるところでありまして、創業支援ネットワークを中心とした各支援団体がございますので、そういう商工会議所、商工会、また、各金融機関等を含めまして、一体的なフォロー並びに支援をしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ちょっと聞き漏らしたかもしれないので、市役所に設けました窓口について相談がどれだけあつ

たか、限定的にちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

先ほど市長の答弁のとおり、延べ1,200件について商工会議所、商工会等、各そのほか日本政策金融公庫ですとか信用保証協会であったところであります。市におきましても、助成金の相談も含めまして、おおむね300件の相談を受けておるという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

新規創業者の皆さんも同様、厳しい状況の中、先々の不安を抱えながら経営されてると思います。相談窓口、相談会という切り口でございますと、なかなか本音を話したりできず、勇気を出して前に進めない状況があると考えます。実際そういった相談を私も受けております。

個人的な意見・提案になってしまうんですが、例えば創成塾の塾生OBによる懇談会などを企業支援室と商工会議所等で協力しながら企画していただくとか、塾生同士で苦労話を共有できるようなそういった機会をつくって、ケアできるなんてことができるといいなというふうに考えております。相談できる環境が身近にある、糸魚川市で創業してよかった。私はこの声を多く聞きたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり創業される方は、いろんなリスクを抱えて、また夢を持って創業されるわけでありまして、そういう観点からも市といたしましても、これまでも創業支援に力を入れるところでございます。これまでも多くの方が創業されております。

創成塾に参加されたメンバーは、ご自分の勉強とともに、同期といいますか同じメンバーとネットワークを組んでおる等のメリットもありますので、お互いに相談し合ったり、いろいろ情報交換をし合ったりということで、進めておられるものと思っております。今ご提言ありましたように、そういう創成塾に参加された皆さんが、また集って、お互いの悩みを相談し合ったりという、もし会が可能であれば、そういうものも検討してまいりたいというふうに考えておりますし、いずれにいたしましても、引き続きそういう創業の機運を高めまして、またそういう方をサポートしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

よろしくお願ひいたします。

(3) 番に入りたいと思います。糸魚川元気応援券発行事業と出身大学生等応援事業について、再質問させていただきます。

経済効果が1億5,000万円で、プレミアム率100%の糸魚川元気応援券、今回の予算に計上されていましたが経済効果が5億5,000万円で、プレミアム率10%のプレミアム商品券に比べますと、利用者、事業者にとっては、インパクトが小さいと考えられるかもしれませんが、飲食店や観光業に限らず、満遍なく様々な事業者へ行き渡るための施策と捉えております。

ここから質問になりますが、今後はよほどのことがない限り、緊急事態宣言は発令されないと信じたいのですが、もし最悪な状況に備え、糸魚川市はちゃんと懐刀を用意してるという安心感を与えていただきたい。財源の都合もあろうかと思いますが、状況に応じて財政出動はするという、準備はあると訴えていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

現段階では、コロナ対応という部分については、主に国からの臨時創生交付金を用いながら対応しているところでございます。

また、これから国のほうでは、Go To Eatというようなものも始まるというようなことで、今の時点では、第二弾の元気応援券ですか、というものは計画しておりませんが、当然また、国のほうの対策、県のほうの対策、またコロナ禍の経済状況を見ながら、いざとなれば当然、単独の費用を使ってでもやるべきコロナ対応についてはやってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ご答弁ありがとうございました。

続きまして、出身大学生等応援事業に関しては、私と同世代の親御さんに多くの感謝の声を頂きました。糸魚川市ってすごいことやってくれるねですか、保護者の中には子供たちに送られた品物の写真を見せてくれた方もいらっしゃいました。何より迅速な対応に喜んでおられました。私も自身の周辺からしか情報収集ができておりませんが、大学生を持つ親御さんから状況を詳しくこれからも調査し続けたいと思っております。

ここから質問になりますが、大学生の物品の配送から、およそ3カ月がたちましたが、糸魚川市のほうで市外に出られている大学生の状況に関する情報は、何かしら入手しておりますでしょうか。この制度が施行されてから、高校生にはこういったサービスはないんですかという声も頂いております。よろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

出身大学生等応援事業につきましては、今年の5月に進めてまいりましたが、それから3カ月たっているんですけども、申し訳ないんですけども、情報というのはつかんでいるものはございません。

ただ、せっかく応援品を送った。これだけではもったいないので、その後メールマガジンというような形で情報の発信をさせていただいております。また、いつ何時こういった情報の発信をする中で返信も可能でありますので、大学生の皆さんの声、特に今回475人の大学生の皆さんに応援品をお届けしたわけでありますので、そういったつながりの中で、双方向の中で近況ですとかそういった情報を集める中で状況を見て、今後は進めていかなきゃいけないのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

メルマガをされているということなのですが、ありがとうございます。コロナ禍とはいえ、あり余る財源があるわけではないと思いますが、いまだに入学以来、学校に通うことができない大学生も存在します。リモートにて授業を受けられていると聞きました。出身大学生等応援事業は、糸魚川出身の大学生にとって生活の支えになったのはもちろんのこと、大いに心の支えになったと思っております。今後も出身大学生の心の支えになるような対応と取組に期待しておりますので、議会と行政の双方で情報共有ができたかと考えております。よろしく願いいたします。

続きまして、（4）番について再質問させていただきます。

糸魚川市として事業所との関わりについてということでございます。3月から6月の間は、コロナウイルスの感染も拡大傾向にあり、緊急事態宣言が発令されたこともあって、飲食店や観光業の売上げに大きな影響が出ました。

冒頭にも申し上げましたとおり、糸魚川市独自の迅速な経済対策によって、7月、8月には一部の飲食店、観光業のお店で売上げの回復基調が見られましたが、正直、先々の見通しが立たない、この先は誰も分からないというのが本音であると考えます。地域経済を支える対応策があるならば、これからはコロナ禍と共存しながら事業者の経営に対するモチベーションを維持することにかかっていると考えます。大勢の人が交流するイベントや懇親会とセットになった総会等が軒並み中止になっています。人が流動しないという状況が、こんなにも厳しいことであると実感しております。飲食店や観光業が際立ってピックアップされておりますが、建設業や製造業にも売上げに影響が出ていると聞いております。

しかし、それらも何とか歯を食いしばって乗り越えていかなければならないと考えております。いつまでも給付金や補助金を当てにするわけにもいきません。

ここからが質問ですが、そんな事業者の状況を踏まえて、糸魚川市におかれましては、生活様式も明らかに変化し、適応していかなければならない状況下で、地域内経済の好循環をさらに推進し

ていただきたい。このように考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

このコロナ禍におきまして、今、全国的にも近場で動くマイクロツーリズムという観点が見直されております。市内におきましても元気応援券ですとか、今すぐG o T oキャンペーンで、市民が市内の宿泊施設にお泊まりになったというお話も多く伺っておりまして、この機会に地元を見直すチャンスだと思っております。

そのほか飲食ですとか農作物、水産物など、地元の食材も含めて地域内での消費を促進しまして、地域内経済循環につなげていくべきであるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

よろしくお願ひいたします。

大きな2番のコロナ禍における糸魚川市内観光への影響について、（1）今すぐG o T oキャンペーンの効果について再質問させていただきたいと思ひます。

糸魚川・今すぐG o T oキャンペーンに関しては、当初、国のG o T o トラベルキャンペーンが開始されるまでの対応策でありましたが、制度があつて大変助かつた。前年度売上げ対比が70から80になつたと思ひます。これがなかつたら、恐らく大変な状況であつたらうというコメントを頂きました。

先般、権現荘のほうに調査行つてきましたが、権現荘のほうもこういつたコメントを頂戴しております。

しかしながら、糸魚川市に限らず観光業は、引き続き低迷が続いております。そんな中で糸魚川市内で観光業に精通する事業者さんからの調査で、あくまで傾向であり、仮説ではありますが、県民は他県をまたがない観光を欲しており、県内でもお客様は行つたところがないところを探していると分析しており、独自の観光誘客の施策を提言いただいております。頂いた詳細については、担当係長にお渡ししてございますが、有効性のあるものについては、後ほどご協議いただくとして、国のG o T o トラベルキャンペーンの実施と並行して、市独自のコロナ禍に対応する市内観光について対策をお考えか伺いたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今すぐG o T oキャンペーンにつきましては、冒頭、市長からお話ありましたように、国のG o T o トラベルが本格実施するまでの緊急的な取組ということで行つたところでありまして。市内の宿泊施設の方にお聞きしましても、非常に分かりやすく使ひやすかつたという声も頂いております。



すが、現時点では、これから本格実施されます国のG o T o トラベルキャンペーン並びにG o T o E a t キャンペーン等、そういう取組によって動いていただくということが第一でありまして、その後、また状況に応じて、必要によっては市の単独のキャンペーンも考えることがあるかもしれませんが、現時点では、今ある国・県の各種制度をご利用いただいて、また、独自のお宿さんの取組等によりまして誘客につなげていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

よろしく申し上げます。

要望であります、国のG o T o キャンペーンも国にとって初めてとなる施策であり、十分な効果が得られるかどうかは未知の世界であると思います。9月5日の時点で、ようやく地域共通クーポン券の実態が少し見えてまいりました。取扱いの店舗の登録が、この9月上旬から始まる予定ですが、地域の循環で考えるならば、いかに糸魚川市の観光で使っていただくか、知恵を絞らなければならないと考えます。糸魚川市の観光業に携わる方々とコミュニケーションを取りながら、対策を練っていただきたい、このように思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員、今ほど言われましたG o T o トラベルキャンペーンの地域共通クーポン券につきましては、まだ実施されない状況であります、観光協会におきましても、観光協会の会員等を対象に説明会を開催するなど、また、G o T o トラベルキャンペーンの第三者機関として登録するなど観光協会も地域と一体となった取組をするべく動いておりますので、また、市内の観光事業者の皆さんも一緒になって市内の経済が回るように一緒に取り組んでいければいいかなというふうに考えております。

○議長（中村 実君）

東野議員の質問の途中でありますが、昼食時限のため13時まで暫時休憩といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

東野議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

よろしくをお願いします。

大きな2番の（2）についてですが、担当課より、いま一度ご説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川市の医療体制をどのように整備・検討していくかということでもありますけども、これまでもコロナ対応としましては、医療・検査体制の整備というのが一番大事だということ認識しております。そのため感染者の受入れの医療機関の体制整備への支援でありますとか、PCR検査センターの整備の支援でありますとか、そういうものに病院、それから保健所と協力しながら整備に努めてきたところであります。今後は、さらにそれに加えてインフルエンザが同時に流行するおそれがありますので、それらに備えた体制整備ということが必要になってくるかというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ご説明ありがとうございました。適切な対応と市民の皆様が安心できる的確な情報公開、情報提供のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

（3）番でございますが、糸魚川シーフードシャトルバスの運行について、今年の開催はどのように考えておられるかということで、再質問させていただきたいと思います。

白馬村と糸魚川市の連携やつながりは、今に始まったことではなく、積み重ねてきたものも多くあろうかと思ひます。このシーフードシャトルバスの運行については、年々、利用人口も増えており、白馬村とのつながりも深いものになってきていると関係者より仄聞してあります。白馬村に関しては、インバウンド観光による収入が柱になっていて、例外なく大変苦しい状況にあると思ひますが、近隣県との苦しいときの連携が、関係人口の増加につながっていくと考えてあります。この取組を今後も大事にさせていただきたい、このように考えてありますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員がおっしゃるように白馬村とは、インバウンドを含めていろんな意味で深い連携がございます。以前からシーフードシャトルバスということで、つながっておりましたが、今年は渡航ができない状況の中でインバウンドが望めないわけですが、現在、観光協会が中心となりまして、白馬村の関係者とお会いしまして、デーツアーの取組等について協議しておるところでございます、それを基にしまして新たな形での冬期間のバスの運行について実施する予定であるというふうにお聞

きしております。いずれにいたしましても、コロナが収束しましてインバウンドが帰ってきたときに、すぐに対応できるように今後とも連携強化に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

苦しいとき、今であるからこそ、こういうときこそ連携を深めていただいて、関係人口の増加に努めていただければというふうに考えます。

それでは、（4）番、市民の皆様に市内観光資源の魅力を再認識いただくという項目ですが、再質問させていただきます。

コロナ禍の状況下で、星野リゾートの社長である星野社長が提唱するマイクロツーリズム、糸魚川市においてもたくさん観光資源がありますが、現状では、コロナ禍に対応する緊急対策、短期的視点の取組も必要であるが、需要回復後を見越した長期的な視野も併せ持つことが重要であると考えております。今こそ糸魚川市独自の着地型観光、体験型観光に磨きをかけるチャンスであり、糸魚川市民の皆様にも再認識していただくチャンスであると考えております。郷土愛の醸成もそうですが、糸魚川市民の皆様が自信を持って糸魚川市を売り込んでいただくための基盤づくりになるとも考えております。こちらについて、担当課のお考えと対応策をお考えであれば、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市内の魅力の発見につきましては、これまでもジオパークの事業を通じまして郷土愛の醸成ですとか地域の魅力の発見ということに取り組んできたところではありますが、今言われましたようにマイクロツーリズムという観点から、さらにこの地域内で魅力のあるもの、また、おいしいものとかを再発見していただいて、それが地域内での消費につながり、さらには地域内の経済循環につながっていければいいかなというふうに考えております。

また、マイクロツーリズムという観点では、修学旅行につきましても県内の中学校が、県外に出るのがためられるということで、糸魚川にも目を向けていただいております。今後、それらにつきましても多くの皆さんから安全を確保した中で来ていただけるように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

質問の中に糸魚川市民の皆さんに再確認していただく意味で、何か取組をお考えかという質問も含めさせていただいたんで、そちらについてもお考えあればお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

繰り返しの答弁になりますけども、今経済対策で行っております元気応援券をはじめプレミアム商品券をお使いいただきながら、いろんな地域ですとか施設を回っていただいて、また、再確認していただいて、それを来訪者に伝えていただくということでもうまく地域内での経済が回るようになっていけばいいかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

糸魚川市域に住まれる皆さんが、糸魚川市の観光を胸を張って応援できるような、そういった糸魚川市になっていければなというふうに思っておりますし、そういった願いを込めて再質問させていただきます。

大きな3番、ウェブサイトのSNSの活用について再質問させていただきたいと思います。（1）と（2）合わせて、質問させていただきたいと思います。

（2）番の広告バナーの枠の拡大と一定期間の有料広告掲載の減免措置のお考えがあるかということで再質問させていただきますが、この誘客宣伝の対象経費について詳細を確認しますと、パンフレット、リーフレット及びホームページ作成費用、インターネット、SNS等による広告宣伝費、ダイレクトメール作成発送費、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等掲載費用など複数項目の組合せ可能とありますが、地域の方にピンポイントに販促を仕掛けるならば、チラシやダイレクトメールなどの紙媒体が一番効果が現れるのではないかと考えますが、長引くであろうコロナ禍の状況を踏まえると、多方面から売上げの確保が見込めるECサイトなどの設置も前向きに取り組んでいきたいと、ご商売をされてる方で構成される団体の方からお話を頂きました。

ただ、ECサイトに関しては、殊、物販に関して言えることなんですけど、なかなか買っていただきたい商品などの情報が、お客様に行き届かない、つまりサイトを運営するために大枚をはたいて構築した方がいいが、ほとんど機能しないといった状況が見受けられます。

ここから質問になりますが、年間約50万人のアクセスがある糸魚川市のトップページ、ぜひともそのトップページを有効に活用させていただいて、民間事業者が構築したECサイトが、より稼働するようぜひお力添えいただきたい、このように考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

市のホームページのトップページをご利用いただく件につきましては、ぜひご利用いただけるものであれば使っていただきたいと思っております。

ただ、広告バナーにつきましては、数にも限りございますし、有料の方もございますので、そこ

に直接貼るといのはなかなか難しいんですが、別バナーを立てさせていただいたところから、そちらのECサイトとかそちらのほうに展開していくようなお手伝いは十分できるかと思っておりますので、またご相談いただければと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

前向きなご答弁ありがとうございました。

続きまして、（3）番、公式アカウント取得と活用について、再質問させていただきたいと思っております。

その前に担当課より、いま一度、回答のほうをお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

SNSを活用した情報発信というのは、非常に有効だと考えておまして、ただ、いろんな発信方法については手段があるかと思っております。その利用方法、運用等も含めまして検討しながら進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ここから再質問させていただきます。

糸魚川市には、糸魚川ブロードキャスト、糸魚川ジオパークなどのユーチューブの公式チャンネルがありますが、それらを活用していくには、ターゲットとなる対象年齢なども意識しなければならず一概にも言えませんが、ツイッターやインスタグラムなどの発信が有効なのではと考えます。ツイッターに関しては、糸魚川市も公式のページがあるかと思えます。

私自身は、時代に置いていかれないようにフェイスブック、インスタグラム、ツイッター、LINEなどを活用しておりますが、ただアカウントを取得しているだけ、日常をつづっているだけという感じでございます。

インターネット上の新・公民連携最前線、PPPまちづくりというページの記事の中で、フォロワー数が多い自治体SNSとして知られる神奈川県葉山町の公式インスタグラムと、専属で運営する葉山町政策秘書課広報係の職員さんを紹介する記事がありました。その葉山町の公式インスタグラムのフォロワー数は、人口3万3,000人の町で2万5,000人超。2万5,000人超というフォロワー数は、自治体の公式アカウントとしては異例の多さであります。

また、葉山歩きというハッシュタグを設けて、一般ユーザーにも葉山町の魅力が伝わる写真の投稿を促し、まちの発信力を努めているとあります。SNSの波及力や双方向性、即時性は、情報発

信に欠かせないものであると考えます。

ここから質問になりますが、糸魚川市におかれましても情報発信の重要性は、十分理解されてると思いますが、インスタグラムやツイッターで言うとフォロワー、ユーチューブで言うとチャンネル登録者数、これらを葉山町のように増やしていこうというお考えはあるか、はたまた私のようにアカウントを取得するだけで、糸魚川市の今ある知名度に任せてフォロワー、チャンネル登録者数を自然と増やしていくのか、この辺の方針を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

情報発信につきましては、今おっしゃったインスタグラムとかツイッターとか、フェイスブックもそうですが、ホームページも含めているような手法があると思っております。

ただ、発信する側といたしましては、どの年代層なり、どういう方をターゲットにどんな情報を出すのかというのが一番重要であると考えておまして、何と申しますか目的を持った情報発信というのも当然必要かと思っております。またその上で、例えば同じ情報を出すにしても一つ一つを例えば手入力するというような管理運営の煩わしさも出てまいるかと思っておりますので、その辺の運用も含めまして、合わせてその情報発信については十分検討した上で実施していければというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ここからは、要望と意見になりますが、今ご紹介した記事を見ますと、人が集まる自治体SNS、葉山町の公式インスタグラムに学ぶ10か条とあり、10か条の1つ目のポイントに目的を明確にターゲットに歩み寄ると記されておりました。若者がインスタグラムに集まっているなら、町もそこにアカウントを持って情報を発信すればいい。そして、葉山町のインスタグラムの運営の目的は、あくまでも移住促進だと担当の職員さんのコメントに記されておりました。詳しくはそちらの記事を確認していただきたいと思えます。因果関係まではしっかりと調査できてはいないようですが、結果として葉山町では、インスタグラムのアカウントを開設した2015年度に人口増減が大きくプラスに転じ、以降も社会増が続いていくとありました。

糸魚川市においても定住促進課がアカウントを取得したばかりのようですが、専属の職員さんを充てがって運営をするほどの価値のあるものと思えますので、大事な仕事として力を入れて取り組んでいただきたい、このように思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

移住・定住、人を呼び込むという1つのツールとして情報発信、今SNSとか大変有効な手段だというふうに考えております。確かに定住促進課、今企画定住課ですけどもアカウントを持っていて、暮らす働く応援プロジェクトという形でインターンシップ来られた方、やっぱり複数の方いらっしゃるの、そういった方に情報発信していただいております。やっぱりインターンシップで市外から来られる方、特に20代、30代の若い方でありますので、やはり糸魚川市の住民ではなくて新たな視点、見方がやっぱり違ってくると思いますので、新たな視点で糸魚川市を見ていただく。それから発信していただく。そういったところに非常に期待いたしております。

そのほか集落支援員さんもいろいろ地域で、いろいろ地域の情報を細かく取材していただいて、発信していただいております。ここについては、糸魚川のやっぱり日常を感じていただく。そんなイメージで発信していただいているのかなというふうに思っております。引き続き、今こういった集落支援員さんや企画定住課の職員でも発信をしていただけますけども、よりやっぱり多くの素材を集めるということは大事だと思いますので、そこら辺の素材の集め方、それから誰にどうやってこの地域のいいところを伝えるのか、そういった考えに立って、いま一度情報発信の在り方というのの大切さ、もう一度考えながら進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

先ほどフォロワー数と登録者数をどういうふうに増やしていきたい、その辺のイメージ的なものをお持ちでしたら伺いたしたいと思います。自然発生的に人数が増えればいいのか、本当力を入れて増やしていきたいのか、その辺を伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

でき得れば積極的な方法を取りまして、いろんなSNSなり手法で増やしていきたいと思っておりますが、決して市だけで情報発信というわけにはいかないと思っております。住民の皆様、市民の皆様含め、糸魚川市のファンの皆様と一緒にいろいろ連携しながら、糸魚川市を見ていただけるような方法を探っていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私自身もなかなかSNSについては勉強不足な部分がございますので、市役所、市民関係なく一緒に糸魚川の発信ができたかなと思っておりますので、進めていただきたい、そのように思います。

続いて、4番の駅北まちづくり計画、復興まちづくり計画について、（1）について再度、担当課よりご回答いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

市長答弁のとおり、子育て支援の満足度は、総合計画の指標の1つでありまして、令和5年度までに70%まで上げるというところを掲載しております。現状といいますか総合計画策定当初、39.2%を令和5年度までに70%に上げるという目標を立てておりますが、子ども・子育て支援事業計画にも記載のとおり、平成29年に事業計画の中間年に当たりまして、その評価ということでアンケートを採っております。その満足度は43.9%ということで、若干増えているというような状況であります。

さらに、親子保険計画というものもこども課のほうで策定しておりまして、昨年その親子保険計画の中間評価、そちらも中間評価なんですけれども、そちらのほうでアンケートを取った結果、満足度は52.4%ということで、70%の目標がいいのかどうかというところはありますけれども、その目標に近づいているというような認識でおります。

ただ、その中でも課題はあるということで、やっぱり課題の解決をして満足度をさらに上げるということをしていかなければいけないという認識でおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

そこで、再質問になりますが、今後は子育て支援プラスアルファの施設を設置することで満足度の数値をより向上させることと、子育てに関する主要事業の課題解決を図る、このような解釈でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

子育て支援を中心にしながら、それにやはり役に立つような、そこを補完するような、そういった機能をプラスアルファというふうに考えていきたいなとは思っております。そういったことを進めて、今ほどこども課長が言いました満足度を上げていくといったものに役立つ、そういった施設にしていきたいというのが考えでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

要望とご意見になりますが、令和3年度以降は、検討委員会を設置して詳細を決めていくと思



ますが、今後は若い世代の移住定住のモデル地域となり得るまちづくりとエリアの価値を上げるための公共施設になることを期待しております。

続きまして、リノベーションは少し飛ばして、3番について、いま一度、担当課の見解をお示しいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

3点目につきましては、先ほど市長の答弁にもありましたとおり、現在作成中の駅北まちづくり戦略、これに基づいて駅北地区の魅力を上げていきたいというものでございます。どのようにという形になりますと、定量的というよりは、むしろ現在スタートとしては、今あまりあの辺に散策されていない方々、どちらかという最近、若い方々が子供さんとか、あと若い方々があまり歩かなくなったエリアかなというふうに考えておまして、そういった方々が歩き始めるといったあたり、そういったところからこの中心市街地活性化に向けていきたいと、そういった第一歩を踏んでいくような、そういったことをやりながら少しずつステップを踏みながら、この活性化に進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

（4）番について再質問させていただきます。買物難民についてでございます。

本年7月10日、糸魚川市の生産者、商工業者などで作る糸魚川なりわいネットワークが、糸魚川商工会議所1階に直売所、わいわいマーケットを開店されました。営業日は、毎週金曜日、土曜日の午後9時から3時まで、9月からは営業日が変わり、毎週木曜と金曜日の午後10時から午後3時までの営業となりました。そして、土曜日はキターレにおいて、土曜キタ市に出店。

ここから質問になりますが、わいわいマーケットが出店された背景と被災された区域の方々の利用状況を分かる範囲で、そして、同区域の方々への店舗情報などの告知方法を教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

わいわいマーケットの運営につきましては、糸魚川なりわいネットワークが担っておりまして、なりわいネットワークでは、以前から、例えば首都圏のお店との取引の際に先方に品物を送るとかという、そういう集配の拠点を確保するということが課題でございました。そういう集配の拠点の確保と、あと近隣の皆さんから、直接気軽に糸魚川で取れた野菜ですとか、糸魚川での商品を買っていただけるようにということで、開設したところであります。

あと、地域の方の利用状況につきましては、開設の際に、新聞折り込みで周知を行ったところで

ありまして、近隣の方からは平日につきましては、ぼちぼちと近くの事業所の皆さんを中心にご利用いただくとるという状況であるということでもあります。ただ、土曜日につきましては、土曜キタ市ともダブっておりますことから、今後、開設の日は平日に変更して行っていきたいということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

それでは、今、被災地区で問題視されてる買物難民についての皆さんについて、その課題をクリアするために開設されたというわけではないということなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

その被災地の周辺の買物難民の方のためという側面も一面ではありますけども、何と申しますか直接的にはあそこの場所を使って、なりわいネットワークの活動を強化したいということでもあります。

ただ、それに当たりまして、やはり駅前周辺につきましては、近年、買物できる場所も減ってきておりますので、キターレで行われているキタ市ですとか、本町通り商店街で行われております土曜楽市ですとか、今の駅前通りのスーパーですとか、まずそういうお店をまた積極的に活用いただけることによって、買物できる場所も残って行って、さらに使い勝手がよくなっていくものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ぜひこの取組を被災地区の皆さんにお示しいただきたいですし、定期的なそういった広報があることで周知につながって、次の買物につながっていくと思うんで、お伝えいただければというふうに考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

今ほど商工観光課長のほうからお話もありましたが、現在、キターレでのキタ市、それからずっと土曜日に行われておりました土曜楽市、そういったところ、キタ市につきましては、やはり周辺の皆さんの買物に困っていらっしゃるという要望に応えるとともに、要は生産者がやはり町場に出てきて、しっかりと自分たち、商品といいますか作物を提供するといった1つの流れ、そういった交流、要は物を通しての交流になりますが、そういったものを進めていきたいというふうに考えて

おります。積極的にそういった場を活用していただいて購入いただくことが、少しずつですけどそういった不安の解消、そういったものにつながるでしょうし、そういった活動、まだほかにもミニマルシェとかいろいろ考えていただいておりますので、そういったものについての、要は宣伝やPR、そういったものは十分に進めていただけるよう我々のほうからまた支援してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

土曜日だけに限らず、木、金と営業日を変えてあるところを見ますと、やはり周辺の地域の方の日常を意識して変えてくれたのかなという私の勝手な解釈なんですけども、そういった感じも受けられますので、ぜひそちらもわいわいマーケットのほうも頑張ってもらって促進していただければと思います。

駅北地区に限らず山間地も、多くの買物難民、買物弱者は存在し、高齢化社会の慢性的な課題であります。今回の定例会の予算の中にも移動販売車両購入補助金が200万円設定されておりますが、そういったサービスが広がるようにとの期待感がうかがえます。

総務省の2020年1月更新、買物弱者対策に関する実態調査によると、配食・買物代行、宅配、移動販売、店舗開設、などの買物難民の支援事業による収支状況は7割が赤字とされておりますが、逆に言うと3割黒字ということでもあります。商売としても採算が丸っきらないというわけではないと感じておるのですが、商売として。

○議長（中村 実君）

東野議員、質問時間がオーバーしております。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

13時40分まで暫時休憩といたします。

〈午後1時32分 休憩〉

〈午後1時40分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、古川 昇議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

古川議員。〔16番 古川 昇君登壇〕